

平成29年度 島根県立出雲高等学校 入学式 校長式辞

翠色濃く久微園に鳥啼くこの鷹の沢の丘に、柔らかに降る春雨にしっとり濡れた桜も美しい本日、こうして平成29年度島根県立出雲高等学校入学式を盛大に挙行できますことを、大変嬉しく思います。

入学式にあたり、PTA会長多々納剛人様はじめ多数のご来賓の方々に、ご参列いただき、新入生の前途を激励していただけますこと、心より御礼申し上げます。ありがとうございました。

先ほど、入学を許可しました**319名の新入生の皆さん、入学おめでとう**。私たち出雲高校は、**第71期生**となる皆さんの入学を心より歓迎します。



また、保護者の皆様、お子様のご入学おめでとうございます。真新しい制服に身を包まれた本日の晴れ姿に、感慨も一入のことと思います。

さて、新入生の皆さん。皆さんの多くは、人生での初めての大きな選択として本校を志願し、見事に合格の栄を勝ち取られました。その努力に敬意を表します。特に今年度は高校入試制度の変更があり、皆さんにも戸惑いがあったかもしれませんが、その中でも志望を貫き本校を目指して入学してきたことを、とても嬉しく思っています。

しかし、言うまでもなく本校入学はゴールではありません。皆さんの将来的な社会的自立に向けての**新たなスタート**です。本校入学で満足してしまうのではなく、本校で如何に学ぶかこそ**大事**であることを自覚して欲しいと思います。幸い本校には、伝統的に尊重してきた「久微の精神」があります。久しいという漢字に、「しるし」と読む象徴の微の字で「久微」です。これは、中国儒教の経典「中庸」の一節、「至誠 息むこと無し 息まざれば 則ち久し 久しければ 則ち 微有り」から採った言葉です。至誠、誠実を尽くして物事に対処すれば、いつかは**その微、成果は表れる**という意味です。昨年夏の本校野球部の創部68年目にしての**甲子園初出場**も、諦めず誠実に**不撓の努力**を続けてきた微であると言えます。皆さんのこれまでの努力の過程を忘れず、より高みを目指して**誠実な努力**を続ける人であって欲しいと願っています。

さて、本校は文部科学省の指定を受け、SSH(スーパーサイエンスハイスクール)・SGH(スーパーグローバルハイスクール)という二つの事業に同時に取り組んでいる、全国でも稀な20数校の内の一つです。これらの事業は、これからの教育のスタンダードを開発していく先進的な取組ですが、本校では、社会科学・人文科学・自然科学の多岐に亘る分野で、課題研究を軸に、**地域・社会のリーダーとして貢献できる人材の育成**を目標として取り組んでいます。様々な刺激に満ちたプログラムを通じ、自分が持っている多様な「力」や「思い」に気づき、それを伸ばしていくきっかけとなっています。新入生の皆さんには、ぜひこのプログラムを楽しみ、主体的に取り組んで欲しいと思います。

今、私が触れた「地域・社会のリーダーとして貢献できる人材」は、5年ほど前に本校が定めた、本校の教育を通じて育成したい「めざす生徒像」です。皆さんの中には、これまでの学校生活でリーダー的な役割を果たしてきた人も多いと思いますが、皆さんはリーダーとはどんな人だと考えますか。

色々なタイプのリーダーがあり、リーダーに求められる資質も様々でしょうが、私の敬愛する漫画家の作品に、「リーダーとは、安心と興奮を同時にくれる人だ」とあります。その人と一緒にやれば何か新たな挑戦が実現しそう、ワクワクと興奮させてくれる。この人は人間的に信頼できて、一緒にいて安心できる。そう思わせてくれるような、周囲を取り込んでいく魅力のある人が真のリーダーであるという指摘は、リーダーの本質を端的に言い当てているのではないかと思います。本校は今年、「自立・協働・挑戦」をキーワードに前に進んでいこうと思っていますが、自立した個人として、多様な他者と協働しながら、新たな価値の創造に挑戦していける人がまた、安心と興奮を同時にくれるリーダーたるべき人でもあると思います。そんな人になることは簡単ではないでしょうが、そういう生徒を育てていきたいという思いが、今の本校の教育活動の基盤にあることを、入学に当たり皆さんに伝えておきたいと思っています。

私は「言葉の力」を大切にしたいと考えています。入学にあたり、君達にふさわしい、私が感銘を受けた二つの言葉を紹介します。

一つは、2014年にノーベル物理学賞を受賞した名古屋大学天野浩教授の座右の銘です。「憂きことのなこの上につもれかし 限りある身の力試さん」。高校時代に聞いた江戸時代の儒学者熊沢蕃山の言葉で、「辛いこともどんと受け止め、元気に行こう」という意味に天野教授は受け止めています。

もう一つは、2015年にノーベル生理学・医学賞を受賞した北里大学特別栄誉教授大村智先生の座右の銘、「科学者というのは人のためにならなきゃ駄目だ。人のためにやるということが非常に大事なことなんだ」という言葉です。大村先生が尊敬する北里柴三郎先生の言葉だそうです。

辛いこともどんと受け止め元気に進むタフな姿勢。そして、他者、社会への貢献につながる学び。二人の偉大なノーベル賞受賞者を支えた座右の銘。皆さんにも、高校時代に生涯に亘って自分を支える言葉に出会って欲しいと願っています。

新入生の皆さん、今、どんな気持ちですか。高校生活への期待とやる気、一方でまた不安や緊張が入り交じったような気持ちでしょうか。皆さんが不安や緊張を感じるのは、これから色々なことを再構築していかねばならないからです。通学方法、学習方法、友人関係など。どれも今までの安定を崩していく作業なので痛みを伴うでしょうが、新しい環境に飛び込む時に常に直面するその痛みを乗り越えた先に、高校生としての一皮むけた自分があります。どうか困った時は、遠慮しないで先生や先輩、周りの人に相談してみてください。みんな、きっと親身になって相談に応じてくれます。「ヘルプ シーキング」という言葉があります。他者に援助を求める「援助希求」という意味で、現代社会でとても大切になってきたスキルの一つです。困ったときに誰かに相談することに遠慮する必要はありません。皆さんが早く出雲高校での生活リズムに慣れてくれることを願っています。

最後になりましたが、保護者の皆様、重ねて本日はおめでとうございます。高校時代は、社会的自立に向けての最後の贅沢な準備期間であるとも言われます。「保護者」から「自立支援者」へとギアチェンジすることが大切であると言えます。子どもたちの自立に向けて、家庭と学校との連携を深めていくよう、ご協力をよろしくお願いいたします。

私は、小説家宮本輝の「^{すいせい}彗星物語」という小説に出てくる「さあ、これからだ！」という言葉が好きで、調子の良い時も悪い時も、自分を「さあ、これからだ！」と鼓舞してきました。

入学式にあたり、新入生はじめ全校生徒、教職員と「さあ、これからだ！」という言葉と想いを共有し、式辞と致します。

出雲高校入学おめでとう。一緒にがんばりましょう。

平成29年4月11日 島根県立出雲高等学校長 飯塚 勝